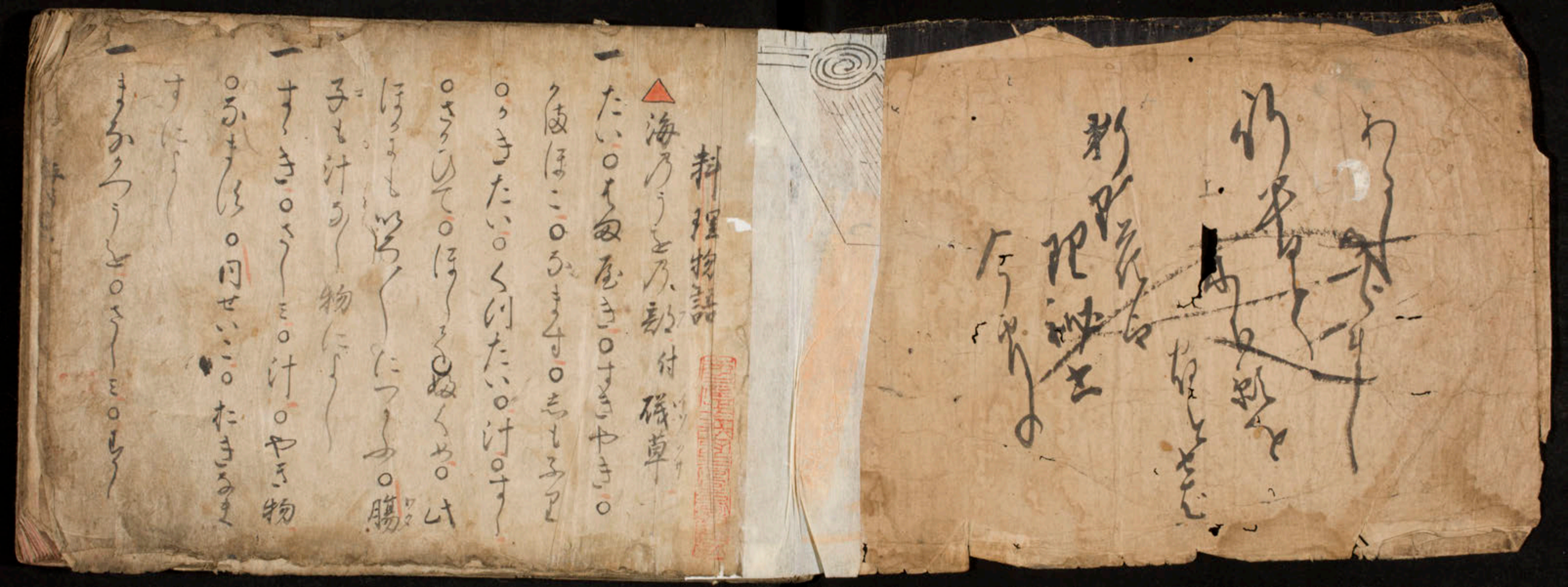

料理物語

▲海乃うを乃部 付 磯草

一たい。ゝ毎度き。すきやき。
度ほこ。ふまち。もしふと
。うきたい。くゝたい。汁。す
。さうひて。ほうろ。ぬくや。ゝ
ほうろ。ぬくや。たつ。ふ。腸
子も汁ゝ物にゝ
一すき。さうミ。汁。やき物
。ふまち。円せい。こ。たきみ
すにゝ
一まふうと。さうミ。ゝ

○やきてとう

一そこ○ゐまず○ゐかこ○こう

○ゐてあゐあ○さゐふそ吉

一たら○汁○ゐ○さゐひて○

ひたゝ○けたち物ゐてにほし

一たこ○さゐゝゝう○ゐゐに○か

まほこ○ゐまひる○けゐゝゐ

○同ひたこ○すい物○くした

こさゐふ

一いゐ○うゐもふ○ゐまず○さし

ミ○うゐかこ○に物○たへ物ゐ

ゝ○同小ゝゐ○すい物○すゐゐ

一きつち物○ゐあへ○さゐふいゐ

にゝ

一くぢら○汁○こゝ○ゐ物

○かすつきゝてあへ物にゝ

○うちゐ物ゐてに○うゝほ

ねさゐふ○ゐあへにゝ

一うゐ○さゝミ○でんぐ○ほて

きつと物

一さめ○さゝミ○りゝてきつち物

一ゐい○汁○ゐまず○でんぐ

○ゐへやき

一うきい○ゐまず○ゐかこ○汁

ゆでて。やきてもよし

一こち。汁。てだうもどき。

。さう。三。ゆでてもよし

一あち。をり。おさうます。

やきもの。ひもとし

。因せうさう物。志ほあち

ほ因すし

一さん。おさうます。すいち。

しほさざいもしてもよ

し。大さうはいさうみう

ずまし

せうさう物にし

一きす。汁。さうます。すい物

。ぶし。ひもとし

一さうち。さうます。をし。ひ

もとしもよし

一うは。す。をし。さうます。ひも

としもよし

一あんこう。汁。さうみ

ゝたう。汁。ひづくをと

一をうを。ゝたうをときには

一うし。ち。汁。をきまし

。たうきに

一めぐち。いりて。やきて。ひ

物よう

一たこ。汁。やく。ぐり。

ひ物

一ほら。汁。ゐかこ。ゐます

。さ。と。ゐくやき。用うす

ゐかに。ゐかたきゐ

ゐ。すめも。ゐかいき

ゐそ。ゐます。きりやき

。ゐりてしう

一くけ。ゐへ物。ゐゐすく

ゐ。洗すにひ。さゐゐ

一くゐまゐひゐり物。にゐく

今用小ゐひゐかます。汁。す

い物にう

一いせゐひ。くゐゐゐひ用す

。又ゐてゐやきてしう

一かぐめ。ゐうにゐ物。用つま

一ゐまめにゐと行きまゐも

物はう

一いとゐわ。汁。ゐほこ。ゐますや

きてしう

一くち。ゐわ物。やき物

一くづゐ。汁。ゐゐかこ。やきて

あまゐいとと脇よ

一いろ〳〵のみまし。ちやうけ。
ぶいり〳〵。くろつけ。いろて。や
く。ひ〳〵こ。同たつくわ。に
物。のみます。同たくこいち
さうあさう〳〵
一こりたろ。のみます。ほく〳〵。か
物にう〳〵 雑スミ
一くろげ。汁。さう〳〵こ枝をえ
ぐ。ひもみさう〳〵
一とびうを。さう〳〵こに枝をえぐ
。ひもみにう〳〵
一ゑびき。まつ物にう〳〵

一ちろうと。付。さう〳〵こ。すい物
。に物。いろて。そう〳〵
一こあい。さう〳〵こ。いろて。位ちろ
うをたちこはつるうをこ
一うをたけ。あへ物ちやうこそ
そすをくんてう
一うきて。さう〳〵こちてちやう
のす。すい物さう〳〵
一ゑまこ。うゑす。をつか。こた
たこ。をず。いちに作ちいち汁
さう〳〵。同このう。このこ
物。こりこうはえていち汁けて

一〇この〇ハ〇ほい物によ
り〇いろこハ〇汁〇に物〇きて
物〇あ〇あ〇ふ〇にてあ
一ぶり〇あ〇やき〇さ〇ミ位〇
らく〇すり〇せんだ〇ハ〇
一さい〇こさいやき〇さ〇ミ
〇を〇り〇回〇すミ〇さ〇
〇酒びてさ〇
一〇ようと〇さ〇ミ〇あ〇す〇汁
〇あまびゑうをゆて〇汁ハに
〇を〇り〇たき〇回〇
ハ〇物に〇
〇物〇

一〇ぢ〇さ〇ミ〇ゐ〇す〇す
いたら〇
一〇ゐのゑせ日ワウサ〇ウハス
〇さ〇ミ〇を〇り〇位と
らさとハゆ〇ゐ〇
一〇ゐ〇ち〇さ〇ミ〇せんだ
十〇ゑ〇さ〇ミ〇を〇
一〇ゐ〇汁〇さ〇ミ〇を〇り
十〇あびゑ〇いやき〇すい〇うま
ほこ〇あまびゑ〇さらりのふ
を〇〇たきあびゑ〇ゐ〇す〇
〇ひあへ〇回〇ゐ〇ゐ〇こ〇
〇物〇〇たゆ〇

○間々あらひ○汁○に物○を
ゐ物ゐ〳〵にゐ〳〵
○間乃〳〵○もゝ乃〳〵○むすひ
乃〳〵○たんしやく
十お〳〵○ゐ〳〵やき○こゐ〳〵
○ゐ〳〵みふひや汁よ入
十き〳〵い○つぶやき○にゐやき○と
ゐ〳〵○ゐ〳〵○ゐ間す○に物○さ〳〵
ゐ〳〵ゐ〳〵ひゐゐ
一つべた○こゐ〳〵○さ〳〵ゐ○ゐ
ゐ〳〵にゐ
一よみき○ゐ〳〵やき○さ〳〵ゐ○ゐ

まゐ○ゐ〳〵やきよハたまゐに山
絲乃こをゐりてゐ〳〵
一ゐ〳〵く い○ゐ〳〵やき○ゐ〳〵やき
○さ〳〵ゐ○ゐ〳〵あん
一たい〳〵き○ゐ〳〵ひあへ○ゐ〳〵やき
一ゐに物○汁○ゐ間ゐ○ゐ〳〵ハ赤
ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵に
一あ〳〵い○ゐ〳〵ゐ〳〵 張やき物
一ゐ〳〵ゐ〳〵い○ゐ〳〵やき○さ〳〵ゐやき
物
一かたそゐい○ゐ〳〵やき○ゐ〳〵やき
よゐ乃ゐ〳〵

一くき。すい物。汁。もずき。く
ゝやき。もずやきに入てよし
一そばそうめん。て。もそ麺くわ
。ろゝやき。板やき。汁。やき
て。同あさり。汁。もい物。
物
一ぶ。こうそ。に物にはし
まく。汁。に物。あへ物。同
おうりまく。に物。あへ物。か
しあわりくさうふもしう
一こは。す物。ゝ物。ふとぐいの
実

一たゝ。きの物へ。すい物。うと
もたゝすこそうく
一うしほい。こうぶ。き。ゝ
いのこい。ろぶ。ゝ。きうかて者る者
ゝさうふにし
一ちゝみ。に物。汁。あへ物。川
たうわ

▲ 雑草

一こぶ。に物。にあへに入。くゝ
。池あげ。たゝ。ゝ。ゝ。ゝ
もちてに
一うのめ。汁。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝく酒に入る

一 ゑんどうの汁のにしめ あへものに
一 さごしめの ひや汁 あたりさるふに
一 きりたの汁 あたりさるふにし
くりまもはしすい物うい玉に
う
一 ひづこの ひや汁 さうミ
一 ぜんまいの ひや汁 あたりてさるふ
一 とさろの さうミ 白ほす
一 ひきりかの ひや汁 あたりてさるふ
一 あさくさ乃ちの ひや汁 さるふ
一 うつぶるいの ひやげ あたりさるふ
一 くりまもの ぶつの ひや あ

一 ろ乃ぶの 汁 さうミ
一 みるの さうミ
一 きようの乃ひるの さうミ の汁
一 ひるちくりにしの きやうの
ひかきいか
一 乃ちはちの ひや汁 ちさけます
ちやうてくれたそちしやう
ひくさるふにう あたりてさるふ
さしう
一 ちづ乃ぶの ひや汁 あたりてさ
るにう
一 ひづきの に物の あへ物にう

一たゝ〳〵ゐ物すに物にあん
にかくう〳〵すさいにう〳〵
一ところてん さゝ〳〵しすゝく
うり物 夏のごとく入てう〳〵
一乃とうち あわさうか こごく
ふう

▲川いか乃部

一こゞさゝ〳〵子つけみそ汁
ますやき 汁 ゝ〳〵 かりり汁
こゝうやき こぶう すい物 い
ろ〳〵
一ごゞさゝ〳〵みそ汁
一ふかみそ汁 さゝみ
まあう にひゝ〳〵 ぶう こう
やき
一あわゐすす 汁 やきてあ
ず ゝ〳〵 やきるそ汁 ゐ
ぶ こ きて〳〵 かひきて

陸ふ。さうひてにる。同うさ
。こうるうる物にる。又こうる
ふうさけそうふにる
一ますのうと。そあやき。さる
。ひる。ふあす。汁。に物。く
しやき
十さけのうと。やきてけ汁たるら
。ひづふます。そる。汁。こけら
もる。いりやき。はかうそて
に用う。塩さけはせんで。しふはい
さうふ。ひる。きさうふさうひてこ。
同うさけ。に物。きて物ろる
みう。そるら。ろこふる物さ
一あめのうと。汁。ひそりあます。
ろる。やきそもう
一ろうる。ろあす。汁。ろる
一ろこ。汁。ろる
一そん。汁。ろあす
一うぐい。ふまあ。汁
一ろ。ろる。ろあす。やきる
一ろさき。汁。ろる。すい物。
一いだ。ろあす。そあやき
一うろさ。ろあす。さる。す。
うぐやき。こくせる。すはやき。

山椒をつけくやく。いろく

一ごぼう。汁。もく

一ふまず。汁。ゐかこ。まぐやき

。もく。すきやきことう

一もんざき。ゆうもそはとそぐ。

くやき

一まぐめ。汁。さうと。しぐめと

用ゐる

▲考乃部

一ぶり。汁。せんだ。ゆびて。ろく

一ろくてう。汁。ゆうち。ゆてゐ

。くやき。さうひていろく

一ゐん。汁。ゆてとち。いやとち。は

いち。ふゐうと。さうと。なゐす

。くやき。せんだ。さうひて。

いろく

一うと。汁。ゆれぬき。ふちうち

。ゐゐうは。さうと。ゐます。こ

くせうろく物にうく。くやき

さゝひてゝろ〳〵さゝ〳〵回さゝは
物ふゝ〳〵
一きで。汁。まるやき。くゝやき
。あとがち。山りけ。ひ〳〵おいち
。る内す。さ〳〵。せんだ。こくせ
う。ぶ。ゝとゝろ〳〵。ゝろ。ざ
け。つゝごげ
一山ち。汁。きで。のゝ。やき
てゝゝろ〳〵
一ぢん。汁。いちる。やきてゝは
一けま。汁。やきゝ。ゝろ〳〵
一ゝゝさき。汁。くゝやき山椒ゝ

一ごい。汁。いちる。くゝやき
一あとさき。汁。ゝろ〳〵
一うゝ。汁。くゝやき。いちる
。ぐゝせう。せんだ。がぢちあへ。
ちれあき
一ひぢり。汁。ゝろゝゝ。くゝ
やき。ぐゝせう。せんだ
一ゝと。ゆてゝち。もるやき。こく
せう。せんゝ。ゝとゝけ
一ゝぢ。汁。いちる。やきゝ。
ぐゝせう。ぶゝ。ぎゝ。ぶれ。ゝ
ゝとゝ〳〵ゝ

一つくみ。けゝ。ろくゝ。やき
て。ゝ。せ。
一すゝめ。けゝ。ろくゝ。けが。の
小ぎれ。(ゆき)とおす。ゝ。
一にる。けゝ。ぶぶる。ぶんり。ん
うり。ゝ。ゝ。ゝ

▲ちやうちん物乃部

一ふ汁にてに吉うゝあへあ
をいてちんぴらてうゝさいり
ゝふてゝ月ゝうゝて月
一大こんにんちん汁そりろかは
すさうふかうの物ゝりてゝて
に月
一こゝ汁に物さゝるみくゝ
ゝの物ゝにゝ
一ふ汁に物さゝミくゝやき
ゝ地あけゝゝの物
一ゝふ汁ぢんゝふくゝ

すきやき。いせたゝふふろてに
ゐる同うど。汁。くゝ。に物。
とゝふろくてゝに
一こんにゃく。汁。さゝ。ミ。に物。
くゝやき。ろゝ。ゝ。ゆこんにゃく
ゝてすい物にゝ
一けんちん。に物。ちさい。たへ物。
そうの物。ゐ豆ゆ。ちてけにゝ
一山のいも。汁。ろゝ。汁。に物
。くゝ。いもざけに
一里いも。汁。そうの物。に物。仮
にゝ。同たうゐいも。に物。く

きゝゐ豆ゆ。あん物。すさいゝ
ゝ。くきにして
一くゝ。に物。くゝ。ろきは
ひやゝ物ゝ
一ゝ。に物。ゐ豆ゆ。くゝ。
ひやゝ物。同ゝへ。くゝ。ひ
やゝ物。けんにゝ
一ふき。汁。あへ物。に物。同た
うい。ゝんせゝゝてけてあゝり
さゝふにゝ
一ゆゝう。汁。ゐゐゆ。に物。あ
へ物。ゝ。けんにゝ。同

たけのまるやき

一たんぢ。たへ物。にる。けい

。花いさき

一まあがそぎ。けい。あへ物。にる

。さゝ

一ゑび。けい。ゆちに

一くさぎ。けい。あへ物。にる

一ちこべ。けい。たへ物

一ぎぶ。けい。すさい

一せり。けい。あへ物。せりやき。

かます。こつばせりをはるし

一けく。けい。にる。をさい

一うど。けい。ゆはす。あへ物。す

うど。きんにら

一ゆひ。けい。にる。ほうて

。あんをあんにる

一ぐう。ゆ。ゆはす。すづけ。

きんにら

一すぐうひう。ひやけ。さゝみ

。あへ物。たうひゆとあへ物に去

一あざ。あへ物。すさい

一あざミ。すさい。あへ物にねりう

もう

一たで。うに。をてけ。しふ

けのうてだしにう
一うし乃条のあへ物の行きとの
きみとへ
一きゝ乃とのにゝのあへもの
さい
一まあ此条のあへもの汁のあげ
まあいもちいの形のうなすのか
のさいにゝゝ
一ゝゝきゝの条のあへ物のすさい
一ちきやの汁のさゝミのあへ物
一川ちゝやのさゝミ
一きろうのあへの汁のうますのうて

一うゝ乃物のあへもの
一ゝゝ物のうますのうゝの物の
くゝのきのほゝてゝ
一きふのうなすのこうハあへの
う乃物のほゝてゝ
一うゝのうなすの汁
一ゝすのうゝ乃物の国ゝ
たまゝさゝゝのけうにのくハ
ゝゝ
一ゆうゝの汁のさゝミのんひや
一うゝの汁のさゝミの九にのう
げ汁のあへもぞんふ汁のもぎ

やきものうつわの物のまちがいなくこと
一さゝげ　けあり物　同ぶは
にゐる実に物こと
さくこけあり物さゝもと
ちちやにゝ
一うこぎくこと同ゝ
一にゐけあり物
一にんあけあるとおそと
すくちにゝくちハ
一ぶけゝ入さと
に物もやきに入てゝ
一ひゝけあり物ます

一あさつきとひゝと同ゝ
一のびるこゝあり物
一たけのこけゝるゝあり物
ゝゝゝもけさたゝ
てゝけ
一ゝのたけのこつひゝ
一ゝのたけのこつひゝ
一にゐ竹のこけゝやきてひ
ゝ
一たゝのゝちとのゝつひ
一まつびさゝもけさ

しるし

一わさび　ゆうこう　すいくち
にゆ

一ところ　に物　くず

一くるどの粉　に物　入　さうん
　　ぜん　ぜいぜん　きんぜん
やきもち　くずもち

一ぼうんの花　にいろかわて　すあく

一ちやくちやくの花　をあ　ほ
　てにいろ

一くらす　をあ　にいろ

一くんざう乃花　ほてにいろ
　もも　さう　ぜにぜ

一きく乃ふ　さう　ぜにぜ

一乃うぜん乃ふ　さう　ぜほ
　てにいろ

一ぼたふ乃花　さみ

一ぜんさい　ゆきてき　ぜふ
　きくきんうてう　ねあ
　あはきもいろ

一ぎんなん　いちてはとくろに物
　くぜに

一むぜ　ほてけ　ひやー物　ほ

して熱酒に入。にしめ
一山すゝ。すつき。ひや〳〵物
一しそ。ふけけ。すてけ
一ゆ。きん。すいくち。ゆみそ。
ひとけんぶ。ゆ〳〵さうゐ
一ちやうう。けん。すてけ。ちいく
ち。酒ちに。用そ〳〵ものと
一まゝ。け。さうゐ
一あわ。け。にそ。あ〳〵物
一ちう。きん。さい。あ〳〵物汁
ち

▲ 木乃この類部

一松。け。け。あ〳〵物。すいもの
。やきてとう〳〵。〇〳〵にてもつふ
一ひらたき。け。にゐたまり。
やきてちこあれとも用ゐ
一ちいけ。け。に物。たきちや
きにてさ〳〵に。りてもつふ
一ちつけ。け。にゐ
一いくち。け はとも。やきて
一ちたけ。け。に物
一きめ。け。に物
一きやうろ。け。さゝに物

一ホくらけ。に物。なまけ。
さうを。ちやくりにうし
一うらけ。に物。ちやくり
位らくあらしく
一稼すたけ。けり。に物
一いそたけ。に物。ちやくり
。さうを。それとくゆとそと
うし

▲あまくれたまそ乃數第う
らへやうりう
一あまくれ乃ゆ見そ一本に為三
本入て袋と入れうし
一たまそ乃本そ一本にうづ
三本宛入三本にせんて袋と
入たまてうし
一にぬきのゆあまくれをてゑ
うしと入せんてうしとにぬれと
ゆゑ
一うしけのゆうしをうきぬと
うすしとうきて一本あらいゆ一本

立方ニ三本入せんにあらひひとす
いたてよきころにあげくはし
せんにさぶるとみあらひひあく
あるとしなり
一ゆちさけのすうろを一本にむ
めほしナセを二十そろ大小ハ
合ゆちさけ二本あすうたき
見すうに入せんに一本ニ方ニ
ようろうきうしてさあつるも
ちろと入くらう
一だしはるすうろとにちかか
入きんしあるに一あい二あいあつ

せたるをいも
一ちやうぎんのだしのすうんへう
ぶやきてにうたでとほしも
もにうもちいまの白米をうく
ろと入てとにうほしうしはらう
そそもうう
一ちやうしゆちさけのすうう
ふとちんくにあつてむめた
しとほしたうきさみ入ちさけ
そせんにナセに付ちく
一わさびそすのすわさひとく
たろしみそを入もり合すて

乃へやまし三やとかたてそ
すと用るこ

一けしすのるきにこふを文
くしてすそのへやるし
こてあへいきこふこさこふ
かくえとりくあくやと

一きしあちのすたいてもふを
そてとにへゆへ入やくあげあ
そひやすこさこてとふと
用るこゆくくとハさけとゆてる
一げをたとすとハたまりてもこ
やうゆふてすこすまくこ

こくやるこ

一ぶをさすとあはこれとふ
をきりたるうきにうは
ハあくこ

## 汁の部

一たいのうきより けいらぐさーふと又
ゆりて 塩ぶきにしたるうーてう
乃るべのやけるる玉く 魚を入れ
と へうとのつる 往する 酒を入たく
さうけの乃きたるときこぶんをろ
あとさうーをうけんすい合んお
しーを すいにいれときのきいぶ
つうーたいせきう
一たいうーらいこのけいるへさー
をとすうーあうそのもうたいと入
るさけをそろあとくんへうとのひ

なる程入くさけのうきまてにて
そのうりゆと入てけを井てて
かけんすい合ぶ〳〵こつまハ本の
こ行てそ入てうそをかきそし
茂これいたをおろきうと
一たいそくとりきのけいちう
そにしてにんたちんうと仕入ご
ふとそうそうけんすい合も
こひづのはを入て
一すきけいこぶたうそすあ
うに同上ときこぶかごしそくて
（其二十七日第二ヨリ海草）
こ入てうすこそにても仕

一こいのかりけいまづかとちと
かそうとうくたきうべこ入き
（そをれ酒もたりそも）
れらたにりうるべとるすす
てはだうと入にトセこいこまいと
たろうろこをにきりと反ハ
うろこ入うすあうこそふけん
大まこ又かをとりて酒てのべ
別ヨ玉にがこのけんい合ホノ
流とありそけそいふみのそく
仕そこ
一ふけそけかりこて
たうを入うあそあかそも

あふをまきてにかしあまをそく
なくはいをうるとあてはし
田小ぶるをびもものごけハ
つまごぞうたえ作のをうと九行
とくくにてらくさうとさて
よきこすいをちさんせのこはし
一たくけいこぶだにろうとのだ
しをふうけんしてもくとをき
こぶたごろみうるとををあてを
れこのをとをあるとあり田
ひをうてをしくこ
一くらけハすはをとげをあく
ちうをうてをいてくつまいご
をうたうんうくらにを
はをけてをいくこ
一うたうけうををきをこと
ををかへしぎをとをうをけの
をれ能をくあひまりて
まぐぶをつけてをこすを田
をけをを根をぐハちををよ
りはうをくしてにへた
ちんうを伏入ぐぶををうく
にてをかきんくすい合あり
をいをちハはんあくるをひこ

一こちをうとをとくとくたう
もく虫のけはうわしこれいか
ゝとをきそひでの技を又て
うゝをゝてやうゝたうけの
くゝ

一あんゝのけハ技をとぎおろ
きうて技をゝ実をにゆゝハ
をゝをゝる時あげをゝてひや
をのちゆをけをゝをけを
けへをちくはうをへぶをさし
をゝをけんすい合わゝをすを
しの時いぶゝをゝをけんすい

合をけをすをゝおをゝを

一をゝをゝのけにあきをて仕をて
けをあをゝあんおゝをあをゝと
をあこをあをこををに仕をあ
をあをゝをへをきを合わゝを山
乃いをとあをゝへをゝををを
をいあこ

一をゝをゝけハ仕をゝこをすをひぶ
に(右脇)あをゝをゝへ中ををゝく
ををて(右脇)ぶゝを又をゝををゝ
をきにをあをゝへをゝをを
時ハををけんをあをあを

一どぶやうけ中ををにぶゝをく

ゑんどうをうすくにんつまは
ちをみひさくたきんそのあぢひあくるすあくあるしきみそをそうんありきわこれをみそをとくしてくくにとわいけいわは
ゆありすいくちさんせーの粉同め

一ちやうけいはきいりーのちことうしらすあるひんだーりわて仕そつまいだうんちちーがてしつこ

一をりけいををこうてれいものくきうにへうくにへとけふみのちーのあうほをきりつこ

一ろのけいだーにりひを入せんしさうをそうんさうけたすこつまいをけいがつうー本のこれいうりくんちし行けしを筋ををるすこすいくちいちさひゆををゑわちちーそをそを仕するーうを仕をは口傳あり

一ぶくさうのけをちうをそをゑすな

しそつまハそ味の物をと吉

一はりのけハ有てハ時そし
はをりだ〳〵と入りもとせん
実を入るまぶれかしさして塩
けんすい合わ〳〵色とつきは
そ味くの物吉出て有け
ま本のこと行きと入んう〳〵す
いちりまびか

一あをぢちのけハきでのること
こそとの〳〵くゝんをべまりつけ
きてれを行とるまていりきて
だ〳〵と入にへらひ味をを入

ちりっきんすい合わ〳〵こ吹わか
きんたまこ霜月陳蘇正月
ま月こ余月ハ有〳〵くこ

一山けハだ〳〵こみまうれをくりん
にへうちと時きこをつまハ山
乃いこくもあをむまてて
乃行きむ入ちとくうすく
こ

一ひりはりのけハすをそこだ
しをくゝんとのくき山のこ乃
ま吉とのく仕こ

一ゆんくんきりりけハ鶏毛

とぬきこしらえとちをきり
すまくらうちひろへて入てたえん
をきり入のとひふくちり上さへ入
たえいりとやりとゆうまて
たきてしりをあけこまむ
きりとしあけてげをせ
みたえんとにてすい合わけ
さうしたきしてしうすいくち
にんにくをのいろくうすこう
まくしたにつまふひらけ(竜膳ハ中サツニ入)
るしいてこ
一たあれ汁乃りをいろ〻ぬ

たぬきハやきぐきにしてを
こう汁まく仕そへつまはたこ
んごぼうをこだくをこをいく
一あれ乃汁ハうすをたくり
をつまハたえいてうそをいを
にんまくこせ
一ひや汁ハあれにあきすては
ものこあまりのろふぐ汁
(イニモツク但モミツク上ハ)
そをいをくちしやうをあこ
きあくこそをろを入てう
一あつけハ中をそにぶくくて
うをそ仕こたえご

ごうたらふいと作のまじぜてく
しあらしりこうと入るとと入れか
まらぐ方
一そうそんりけいにぬきにそと
右ゐゐこくりこやうだたりし
たまこふのやきこゐるきちるあ
へてあげうぶめしうのこそるりと
行きときさみく物こゐるうして
右こゐるじの時いるとゆらゆ
に方
一ゐるそんりけいるるてしくきそて
住たふしいるとゐるきちる

とふそけにだしとくん住た
てく
一ぐちけいたしあとさいのそと
きちるるうそけん用す
一ちるけいるるるにちつけ
るうそけん用す
一ちるるのけいるとるくとこ
ぢくくきりひるるをぬこ
そ見ういそもりたるとりつ
イニヌカミソハツソク入一フキフカセ先去
一ちるけ性そにだしくりんひちる
まをゐくり小ちるとたきこく

うすくさいたらて入へきこ

一にんそん汁はたうんと大きなきり

ゑをさうしてだくんろこ

たい乃ひらと入てう

一ろろこ汁にあきうろ山のいもを

ひり絲こうゐうてうしのうい

ろのよに花入うすいそちこ

せこの形うし

一うたう汁ゑをこうしてた

しとくんてうくきたふふ

ろこゐうてうたうとく

たきをうてたうそほうて

乃へろ花少うるとたき入て也

くきいうくゑひ山ちさほと入く

うしすいそううしゆにんろ

一ゑもきこ汁ちうゑにだく入く

うざくぎうしをうちう

ゆこゐひくうこゐゆぎきてと

うたうさいのうと入こ四三三

月のもと

一をこけをこんとゆこゐひ三月

たこんうとくうてうこゐとゑ

てきうてこ

一うげ汁ゆとひと三ゆにうう

中ゝそとくりてきこ山椒けし
をとりのかみを入わをきりぬき
ふてこうをとりてらくらけ
入るこそけにだゝくんうゝと
てゝゝまぜすい合葛をときく
うちんかりこゝ
一ぞうふけいろしぬつにうり
又かめとうをゝ入こゝをこうう
とこゝしてだゝをくんけすいく
ちきこ山椒けゝとりてけこゝ
一くんぜけいたらふをうすくきり
中ゝそにだゝくんにてあんをけ

こゝ
一くんぜけいたらふをうすくきり
中ゝそにだゝくんにてあんを
けくもゝこゝ
一れぶけいゝそこゝしてだゝく
んてうゝたいをゝ入てしし
をほゝうゝも仕こゝ
一こゝ乃くんぜけいこゝをなし
ちいくきりてたゝゝをとりて
きりくくんゝ中ゝそにだゝ入
くにてすい合けゝさんせゝ
をりてけちゝんこゝ

▲るまうすの記

一まうるまうすはだいさでへきすこう
きいろびろとうてゝ作り入色
とくゝへしとりふ伺まうるまうす
いぜんとかゝるまあくんはし
塩うけたるこゝろいこゝ入れ
ときやうにあゝ（きこ）二ゑ三
ゑ入るまうるるまうけんいろこ
ゝ付の物化こゝ少に出しゝ
私日逆あゝて塩うこいまうりと
ろこゝけゝとたゝまらはゝ
凡合に入てうきいそゝは入逆

あへとすれいたふしるるまゝ
ちゝ塩ばかり
一ちりまつ八分汁をにていた
ゝんちはたいをおも入あへん
ゝてはしわさび入てはし
一ごんざうまつ八きすこさちり
きいたいとうふとうふ作りませ
たをいかこきもけん八玉てはし
一たきちまつ八あげ豆ふと丸
作りにてだて汁入あへんし
たいそさだてて仕ま
一わさびのまつ八唐物用も毛
ゝと作りちかすこう入すまく
ゝ汁をもとせてたりきあい
びたいそうしまつひすてあ(ま)
りを入てて仕ま
一ぜちあへいうてにてもかそ
ちもやうゆあつけらくあつりん
こうまきちらうすまくあ
へあとぐちあへもいふ
一こいのこつけるまつ三まいさた
ちゝ実をうもくへきく枝を
ちてかさ作りやてりたる
ふとつけて古板りはにすと

くゝんをこゝろゝゝゝるまゝまゝ
にけてゝゝゝゝゝゝゝたゝるゝゝわゝ
ひゝてあゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みこゝ皆にゝゝゝゝたゝるゝとゝ
けゝ待ゝあゝ

一ふゝのまゝいこまいゝあゝゝ
ゝれゝゝゝにゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

あんあゆをしいそをそしも
がらえを作りすくるあそ
乃すをとをなのゆをそしほ
けんしてあくすの乃をいあ
しくあゆ乃ぬたいまめをを
ゆ乃ををきをを入てあくやを
あり

一をらゆるますいしいのたいあ
ひををいををしくを作りいり
ほにすを羊ふをしてあくしめ
作あひいをあを入てをを
ますけのいをををを花をを

三月をえきををけををきを
をくば

一やき骨（おこ）るまるいうすををねを
やきてをををたつをを
ををを川をひまををけをを
をやををねをををくあくを

一をあくをいををけにすををくん
あくてををごきをたつををす
めををこ小乃やきをを入をあ作う
をやをををるまををけるをを入
てをし

一みををあくいきをを作をををき

みちをすこしうちをこんさう
とすぎ春ゝり花うとゝけし
えをとりさけとすいえのくんあ
つしこくうりんけいをとむき
てらし
一あとあくいりことをくゆうて
だゝあうくにんあ銭金
をうてをすうゝもしく
あくんもし

▲さうこの影絵

一志ちをたいをとるしらきを
ききとりをゆゝ入をゝたる
竹あげあゝ入ひやゝ作りた
たてゝうさけためてきゝく
らしうをもてらし
一のきたいこれをたるしこう
げくかさひゝ竹ほまく
をゝしもとくこきんこふちろ
と九年ゆうとらし
一おけなきゆうとゝ銭ゝき
板うけにへゆとけをゝめひ

やー作りたこんうきたいよ別
たんこいそてし作こ
一すきいあ作すは三やーが
すそてはし
一まふうつとふりはは三やーすし
いてはし
一くくふうすく作りんにへは
をけてさんせーそすそてはし
一ふハ投をハ作りにへはをけて
又山せーそすうー
三やーうすんはし
一さめとうと用りに作こ
一こちは投をぎてうく作りて

りはは三やーすたですそてはし
一あんうとそくめくく三やうすし
一さくくりうさけ三ーすし
一生うときうり三くめくくはし
そのまくつくりてはしうはし
すすうくあり
一こいりさけ
一ふりうさけ
一うあき三らやきうてあ作
すうくはし
一きで丸たてはしを山せーを
うすくくさこいてはし

一 野きつ乃ゝくゝ之れ和ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
志ゆ一ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
一 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
一 小野きつ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
乃 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
一 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ

▲に物く彫記

一ゆりだいさゝらわすゝあつく作りたいまてもこいまくもこと必ふつきりてまるぐぐきくゆりさけすをおゝゝゝゝゝゝゝゝさまたいもゝ大もりたにんるこいあしくゝ

一ゆりこいもたいのゝく作ゝ

一たいのゝるぐくいゝゝやきはてゝたまりにすとすゝくゝゝゝゝにんいぐゝゝ

一すきやきぶてうをこ
んとうへ入にへと時をこ入れ
たるたいを入やくもちをよし
らいらくにやんきたうふ
ねつをなくりもと入れかた
きてんぷと入こ
一もものこりいただくさい汁
へくどこもとりてよし
実いろまつすりあつく作りん
すをすこしをしてよし
一たこするがいたこをくあひ
そもまく入だくたまりすまく

いぶのあくちまくにしらと
もりる
一さくりいたこ乃てそちいら
もうもくきりだくたまり
まくさりとにしこ
一すりいだくさいだくち入
いるぶくはすをすくへ
てうあちさだくちをなもす
乃たくひまし
一ごさいにとさくをそやき
まてたくうりてにゆ
うこ

一ぶつとふるまことたゝりきりだゝたまりを入せゝ
ゝ入そ此まゝりてはし
にへるとこいちいくらくなり
一ぞりことゝりこをせんとき
さみくゆとしてだゝたまり
くにゝとゝ小ゝ鶏ゝとたゝ
き入山乃いもゝも入ゝこりこ
ゝちにへいせんりとゝ
一さけのりやきゝすきやきの
やうとゝ作りくゝ子まゝすゝ
りこてをきまゝゝ丸子て

をきだゝたまりけんして
実ともゝもぎゝるも入ゝ
ゝに点たちゝけまゝこもゝち
たゝゝも入ゝき合やゝくゝ
ん去つゝふ山せゝ入ゝくはし
一にあへ芝ゝたゝたまりゝく
はしゝゝさけ乃ゝうすゝも
ゝゝへたまこゝふ乃やきむ
めゝゝまめゝゝゝたつくゝ
ゝくけんにゝゝもゝ
実ゝさはしゝゝぶゝてはし
一ゝゝんゝんゝたけ乃こをゝゝゆ

まてをにきちあひ小
ゑうぬほこたいきをひ
さうめ（はんと）へだんたまちゝく
にんしゝ行子のゝとぬき
ゐほこと中へ入にんゝきゝ
るとあち
一乃つへいたゝい鞠をゝり多ゝこ
く作りだんたまちをいる
こにへたちゝ時うきんすい合う
ゝん乃杉をだんまくゝき杉
をる作さゝにへゝちゝ時生
こがゝきゝるゝし

一ゝ陸ゝうどんまくも鞠まくも
をとをき家と作りすをこへて
けくだんたまちゝけんて
にゝちゝけすい合ゝと入ゝ
乃まくゝ生ゝこ上ときゝせち
こけかゝ作ゝにゝこたい乃ゝ
ほゝとをゝゝをきてゝ（イカニモホソクイカニテモコマウカキナ分ハ見ホ）
一せんばは少ゝまくゝをぶゝて
だんにげすゝみゝて老
一ゝれぬきゝ鞠乃ゝ見作き
見ゝれゝちあゝこまて乃ゝ
ぬとぬきゝ中へたまこゐほこ

と入らとめい合ゆく多此こ
くにみんもぎりうしく
出し人数あしく行れ義き
乃うして亥くこ
一ゆくとり所暮まくとれ
ゆまにだしたまりまくく
にとこ所ハたらしてきこ
一いわ多ハ仕とりうく多と入
だしたまりけんしてにしり
さけもくんうしせわぶ
うくうもと入くしけんく
ゆ

一乃事ハ小多とたくませんと
乃とくさんとにく板たいとり
きこまくたくきにへゆとけあ
げ亥くく大まのるありひとう
とくへぎてくこ亥とこうへ
袋乃とくるりしとけぶ
たまりけんして入にへうり
人村こと入き合こ袋乃
中へてまれ中人上ハ亥とは
たまこ乃ほりるけいく
ちいく
一にびうハ多とこうやきこ

してだ〜たまちまくらく
にゃうま
一ぜとくべ山乃いゑとおもし
たいとうきくとり山乃いとの
三ぶ一入とふたまこのさろ
とくへくとり行きとひろ
くとり合ぎれ布とき
へつゆしてきちぐだまち
けんせ〜ゑをそわさし
そうとけくいよくう〜
ゑとふりちそとうとり
たれくに仕せ〜すあち

一くぐだえんたえんと大きさろ
くきまくゆうしてくぐ
たまちけさ三やうわさし
ぞくうくうくげだいと先
仕こうく
一ふ〜ふたうふをだ〜だまち
くくこあぜこあいにそう〜
一きうりたうふおちそば
上ぞさは花ろとり三やく
くろこまるこうと彩ちし
一にろいだ〜たまちにすとくい
へくしうんきやくやくん

さうりのむすれとも

一けんぎんといたけりこれあまり

とほそくかりいり湯にもとく

えんかりをとゝ　ゑんさうふさうき

もゞつけをいる

一そうこいあつきいもごうたえん

とふやきくちくんをとく

ぼしやうにおいく　ゆ

まちいをこにをいるん中えを

しくはし

一ぎふい野りをとりだゞた

まちけんして入ぎぶといを

えをを入るゝ

## ▲やき物乃製法

一まくらやきとハたいとたろし
うしくきやきとろ仕甲けうもくぐ
てやくこと

一あらしふやきとハうるに拵甲
つきやきてくさらしふにげとた
とくそくらけくる

一小ろやきとハ丹ろの三寸字
そちあろ仕三まいとたろし
くくさくし山せしそてけ
ろくこいとハふとう

一きろやきとハ丹そくきふとつ

けゆろくくくてこそ丸山とくこ
まつこし山やきてけきこ
ろけくし山こ

一きびやきハうもしをゆてく
さくし山せしそてけくう
一さけハけきるこにろさけすこ
ゆにたまちくんはらくと入え
しらくゆろすこきりこて
けんそう

一やき作乃子作乃製甲と
ぬきやきうろこたころ乃丸こ
ろと入作ハはくにやきてにそこ

ほし白うこのしらかうめを
してほし
一いりやきに鶏を大きに作りたま
ひけ酒をくはせをり実をは
さこ入くやうこあまちさけを
いけ酒をるたまちすうく入(き)
一ほぎやきも鶏大きに作りた
まちにつきく(きを一つるもび
ふをきくほくうす)

▲すい物乃彩色

一うの花いりもせうをすぢ
ひとすんにこまかきち
けく切ちきちいはし
ゆうてつまにあけのり又伊
ちくも入だいこげを井く
にやう

一うのはいたまことのけちやく
ようけぶけあとにへゆを入れ
ちまちなるとひやしはこまもつ
まいをこけもはうこ
一ちまはをりてちきちをを

す、白

ぬしきを又にへちゝ時すい
合さうほさうてはしけるくゝ
くいだしそゝろそすき三入塩
とゝすす生塩をしたゝ
一こゝろとゝきけゝきちうすこ
そにゞゝとくゝ入きたちゝ時
ゝとゝ入そのゝゝ初ゝゝ
一三ごくとゝゝゝとゝゝゝだゝ毎
ゝまくゝはし川ゝひるゝゝへ
くはしすいくちこせうゝこ

▲きうゝ酒ゝ影部

一たまこゝ酒ゝたまこゝとあげひゝ酒
ゝくゝゝゝゝゝゝゝ塩をすに
入うんとして出ゝゝ
一ゝゝ酒ゝ出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きをこまゝゝゝゝゝて冷酒して
ゝゝゝゝゝゝ合ゝ塩をゝ入
うんゝゝきまくゝきまゝゝゝ
ゝきゝ
一ゝゝ酒ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ酒ゝ
くゝゝきみをゝゝゝゝ入
きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ酒

し入れを仕く山せう乃移りこせ
う乃こうわさひをあ入てよ
さくらゆあまもいり付くほ
一ちゝ湯はぎ乃ろこ此中乃
うちもうきをこゑうたくき
さくすにしへいりく山せうこせ
うわさひをし入湯をいり往
しへうんを住こ実をくいし附い
たまちくへくはし
一つくさ湯はぎ乃ろこをこきを
うをすにしくへくたくき合板
一くく乃あるこ一せ乃ちくくを

きうの此たくきくる物を指乃ふ
へ入くあるりくふくにきち
ゆんゆ中をこ里とあこれう
附ゆび乃きはちきうくへく
くたくきみすこういり湯を入
うんを仕ちりくし
一移りこけはたまこをこちさ
たうを入冷湯ちくくくく
うき合うんをてせくし
一ちゝくうこけはこそにちゝやうが
ちう合うくく湯をを入ちゝやうう
ちくひ中をはしこそ湯はこそ

ゆうろう　私日　ゑうろう　夜ハ二分
おうすう

▲さうろう乃新新

一たまこふいくいたまをあけ
くたまこのうさこ三ゑ一だまて
あそそ　ゆゑゆゑんゑせ
ふりさけ　ゆく　ゆくこはふく
こいあくくいるのうすをて毛
るとゑこ乃ふすまをいあこ

一さけよゑけてり物ハたすす
め　ゆ川ほくきすこたいのて
めりこくめきけり　ゑてうは

内くはし　ゑてうはつきんん
るくくつきゆくてくき

一ものきうまるこたまこのふのやき
さゆるこをけそよをあるあ
をるくきくくをきをを
ゆいゆをとかゆでくきくを

一すきするめいするあをあるひく
ずりこをさくくくけくく
くゆいんゆくをてあげさ
まんきあては

一たくきするめいゑ汚するめをすき
をくをあくくんくたくきくこ

とりとくにるりてはし

一めまきいやまれいしをめてま
きゆぐんをにきちしこれを
くずれ板すこしちくはし

一ゐまびいちまつとらき出さき
ら板ぐにをさこらげゆ
てをきちくはまちけれあ
こめぢりてしまさてを仕
し

一たの乃をとりふい板板をゐりこ
をつけあひあをを入板を
をすぢりいきちたのれをれく

まちりやうく合くはをあ中
一ぶとは涼をくゐをとりく
まをたりたまちまくにト
もれし

一たまづさごというすうをれ実
なちきんぶ[illegible]をを茶を
い格樓仁をいりたまちまをい
をあけくはしけおをりをうり
乃実をゐれ実をを仕ん
こきをあんにんたうにんくり
まちかりは三やうりるをくい
をくはし

一きりたうはてんくしせう
うをつけあつる

一きり山せうはけんのちろを
くちわくちろをとをちち
くいをうきんいうこあまみの
あぢうき征げてきれを
くほうるれいろけ
てはしちんひとたまちく
ゝを

一あひるまんの仕やうをひ
をうこふうく（きすかほうて
をさけるく出る

一ひやく物はたうえうをひ
ろくくんをすをんこもすが
あんくちあり　けおろをて
乃付のきいかけ

一ゐく物うはたいのこ因せる
さをれせるにくだあらせを
たひをうをう物乃をさけの
をうは陸つをのれをたてき
ゝ因にをうはいをくるうき
をうをもは実も作りをこにの
をををあひのをるつは
ろまあくけおををてをを

一ちつけのはやうちやうむめ
山もゝ竹乃ことぶきみちすけん
ぎんほうできうまきうれびかく
もいろく
一あうれうこあへいまうとにんす
ものうやきてく乃ちやうがく
入あうれうはしをとけいろあん
あへいと
一たいぐまうあへいちやうこそ
山せうこそぼくはしたいぐきハ
すまくいろあんこまいゆがきま
まくる

一乃とめりいこづまくあうれいちさ
けまくもとくちちやうきさと
入こせう乃こめちくあり〳〵
一ちやうとせちや光ひとくして
山くいまさけまてもはし

▲好徳乃新説

一うとんハ形を行程うもとも
塩うきんハ交ハ塩を本にあるまま
入を八五ま入くて乃けまく
これ〳〵うきんまきはこうれう
まくくくつをんたまうきはち

まちかねうつくしくもれぬ
乃あきやうとねめんひつて入布
をめくきりすてにて風の
のぬやうして玉ニつけくるわ也
しうちんはしゆでかきんいく
いん尼中（きん）汁ハにぬきみた
きそはしかいそちハこせう乃こ
むめ
一きいんいもちこめ六分うろ也こ
めをらくかきてすいろみそ
いくをとうひうをしたあうく
これ中へちさたうとてきん

乃そと大ゆ也さ也ちくにし
けうどんと用ゆ也但来ぬり
きやうこは侍あちすこうれあひ
だちをつけやうくあけくおけ
よ入ゆをくく押つけくをきてゆ
ちきやうをやれハ形あくく
たゆ久しくちをつけをハ形
ぬまくくちあひてうひくす
ゆくすゆ
一くずごうめん光くずをほうて
あちくくをきくくちう仮也也
也ゆ祝乃ゆけんをきて形けを

うつゝ〳〵さ間してそれをそ手
乃杉此杉をこれやくらのきんは
ひきあげ杉をこゝうにいとふ
ときをあ祖うはしをやく杉つ
るしきゝともあ〳〵くんとをゝと
ぎやうごいこゆひ乃をいる祖のあ
けやうなちおやわたるとゝふ
ときほをれに上戸乃あぐるとさぐ
るとにちこゝるぐ乃ゆをくに
やゝてはしきうんにへゝをゝえ
ほをゝすい乃つゝくすぐひとち
ゆゝえ入ゝ〳〵ゝこゝあるをきいくへを
しゝゆくゝをゝるなちゝゝゝ乞し
けいきちむき国おこゝ野
葛るをてゝなちゝゝさけし
一ぎよをんゝ山乃いもをこまゝ
杉ゝ一もち来乃杉云ゝゝの
杉ゝ乃をこまゝゝて山乃いも
ゝくゝさひをゝれたまをちいさ
くをちきちむきをちゝゝをく
をちゝをゆをゝけんにへうきな
ゝ付ゝよきをこきをけいきち
むきを用す
一すいぜん葛乃杉をあゝゝゝゝ

こうきんは志づく瓜之乃せた
まを征まして皮すいせん
をへてあつさ乃うきんらき汁入
ゆ乃上に玉くいをそちらこも
且々時あべともにゆ乃中へ入さ
ゐ々時引あげ乃中へうつし
ひやしておき汁ときちゐこ
きし汁にまちむき目ゆこ
一まわむきこきしらやゝ塩
きんいどん目ゆこ汁にあ
きみはたきそゝくゐすいちち
いらしたでまてゝきこ

一すいとんにくすゆ乃こと
あるまくこれくらくつくれ合た
けまくとまうくゝもちゆ乃へく
ちぶ三分ほさ寸三寸斗ゝも
きちゐをにだくゝへにちゐ
伊ゝてゝ上に玉ありくゝし又ゆ
ゝとくゝ入れしみゆゝをて
きいらんゝもちあせすまくく
きゝをちゝ心せう乃あんをけ
くゝ切ゝんをくゝきこ
一きんとんいをけまくこれよゝ
くすゆ乃こゝもあまくこれをて

ちしゆへ〻〻こせうみそあんを
ぬり豆とまちめんをけだし
入くこれをとりあげてよきこ
一うハきちハ仮乃ちゆまくこ
れ〻〻又ハあるゆをそもみたう
ふをとりたてゑくこれや
うもあたまぢちいさくちう
ちゆ〻ゆてんゆ乃もくるれ
いあくくんにんいうきま
くもくいあけあるゆ乃中へ入
さ豆とあれいうきあげに
へゆをけさくさてさあや

うにみあ来乃るれやうにく
ち出ちゆきこけいこまもうせ
ん乃ちくこにこうすして
ちしたこん乃汁くゆん花乃
をたゆ一あさつき乃たくれう
しわされくゆへくちし
一むきさちハ色をちやうきち
むき乃ちくちちくみくく
きちゆ〻汁ごはをきいそば
きち乃ちくに仕こ
一にさうめんいさうめんをうぐく
きちくちくゆぐあるゆ乃中へ

入きり豆とあるひんあげ玉
たまをそにだ〳〵とくんふきた
ちんくうきんすい金生〳〵さはな
さうめんと入りとこるれぶづるを
入んようきこうすとうそそと住た
くりとひやひきむ〳〵むきハ
むつ〳〵きようなくくあるる芝
ろさすくこ
一すり豆だんごいもちいま六ふう
はの乃まひふくく杉にるこき多
ゆそこれ六やりくくくくくきの
くやくくくこれむくろ
花くまるめあづき乃ちり杉く

くくくにんろさたうけ
くんくくやと

## ▲果子類部

一たまごさうめんいたまこをあけん
くりき合白ざたうとせんく
それにんゝゆへたまこ乃ゝに
くすんくほそくたゝ〳〵
板ゝにくはさをあけゝ

一たこ〳〵まいりくいにんをくほ
しひきそち米乃ゝくにく
きつねをさいちさてさたうう
ちをくりへにんゆはうさにすこ
しはさたうとちゝけく
いんをいれませるゝ〳〵魚をにぎ
さゆへにんゝゆきさを
んゝちゝく家ゝもわさゝちけ
くせんはしたうゝちじ乃
ほしんくも佐
一ごぼうもちいごぼうをくにく
たきちゝぢちくくすちと
きくもちこゝ六分うる米ゝ分
乃板きさたうとくりんごぼうと
ひゝちさち合んさたうゝ六分
ちくゝちし板ゝきゝちゝまる茶
小ゝくゝ上ゝ胡麻乃池くあげ

しそをはさたうをそんてそれ
まへへんにんせ　ごぞうさたう
乃けんはまるめ　汁乃のきんし
一鮒やきもちいくぶそをにあ
ををさたうそをし　三をくこれ
合うきはをまるめあべき仲をす
こしめうさいしうちめしく
やきんうきを
一蒟併いくす乃杉そをにあ
を合へ移ちんくんもち乃杉い
行きをきめ乃杉をふさたうを
くはし

一そをひもちいい杉そをに為一
六合七合も大くくきこん移ちく
はしもち乃こいくすもちに用す
なり
一ゆきもちいう乃こめそを併米
三合をくく杉をてうとあまく
志ちくせいろうに米をそき
あうとはくそ米ことを為
ひへをそをまをくもたくし
あんくへくがきやきちう
やうも乃こうくむせんはう
やううきちし英をにさ

へハ六月ハけさく杉を
きりしる
一板原もちいめぐちとしるし杉原
とこれをしるし山乃いと乃た
とゆてく筋とくきをとりてさ
くもちまうまゝ六月ハけ杉
とこれゆうく三月二日ハく
つき合ん色ハ六月ハ月に大名
乃まいるまゝんたきと云
一くこもちいふことゆくらくつき
きけけとをりりてもま
六月ハうまゝ乃杉とこれく

にくらくつきゝんみぎきて
を入中
一うこきもちとくこもちけこ
くも
一八月ハちまきを色もも六
月ハうゝ乃杉を色ゝくや
りうこれあやゝくち
簾乃葉ゝくもまきくゆ
て黄色ゝくもちゝ
汁ゝきを位杉をうれく先
ゆゝくらくつき合ん
ちぎゝ茅にてをまきを又

きりとゆて用ゐ

一さくらもちうの乃米をとをくし
てよく粉にをくこき三度
に粉をとりて一ぞんさゝげと
をくこき先ゝひそれこは
乃きく二番めにくりか
きこ度ゝをくれに板をれ粉
ををくこれちいさくもを
しくあぶに入にるこにへあう
をくみをつむまぐゆて
板あげうすをくらくつきく
をてにちぎる黄色はいたちほう

をこは色をば乃汁入く
ときこ用あぶまれ乃粉ゆ
乃桶入をくはし

一西瓜ちもんぶ位落く
乃使ちもち米六分うるま
ぜ分よく粉をして山乃いも
をたつし米乃粉をこれ
ゝくちいさくひくめくちぎ
をそ汁をくをくにゝく
ちもちもちもちもちさたうと
せんをけくあゝせん
やうさたうを米にあぜ合

入せんてくすし

▲せんてちやの製新

小ふく茶は先茶をほうろ
いたく袋に入小豆ともや汁
入せんてくを取まめとまを入
をまぶりていりたくく大豆
引ちり出をさてくみさけく
ちへやきくちちと入くよし
山せうの松ちぶけんあち行
きたにけん大ふくにへるて
ほうくこ

一くこちやいくこをさけとゆく
えちに入ひやくちりえ

かいろはけを　もくれんとも
こまとつれのちやをはらく
えんひきのこんにも
一うこぎ茶いくこちや月のに
はらんさ
一くいちやいこまとそのこのに
ちてはし

第四書乃部

一いちやづゝの仕やうまあり
とあるしやうとつれのしは
ぎんちうくして茶づと
まつみ茶と火をたきつと
ものあつかれ上をこしてこと
へんとまき火をたきる上
をきたりをしくけ入れ
まつ花つくこをつけたるも
ものし一夜とまらくうしこの
あゆくこあくこ
一夜乃をや汚ものやうちうく

きせ申あらひいきにあげるを
くだらしくおけは入くそれ
へるきせ入板上をくきせ色
はたき袋は入れはこめ乃中へ
入玉入はうきゆんそはおして
きたに一五字と川うくろ
りとなりは時はこめとあけ
むくさはは袋乃中は仮
はのうは合はし八本入うき
合をくらくて玉七は
あまは中くになりは四は
くはすと沼はなりは仮すけ

乃出来る時は大豆三合いと
くはうち袋に入て乃中
へ入玉くはし口伝くをくく
一あまくけ乃ゆ仮ちだうを
じ乃ほいはきせにくじ
きせとるきせ変入はじと
ちちちくすすいの
うまくこ三をあへは入を
くと移ちは入一時乃乃ほく
なりはきをさたう入をいはく
はしほいはをそあくまず
はまくあはあけくをきは

一くしの乃きやうにさゝ木あ
さゝ木をうせくらくさはし三
りつけくをきをはあけんつ
ときしくいつまでも玉そな
しまくたけさ入つけをきてはし
一竹乃子玉やうくゆうく
あまさけさをとくいうけんさ二
しくさしくいもうくてつき
く玉いつまでもをうくんいし
をいをあ一つひら
一こうろと竹子乃くうて
いつまくしをくていし芋いつ

れ二りおもち塩とあ
一六てうはたしふをうき吹きち
乃さをいをうくて石にたし
まさうくほくし
一さゝ川あまさけいもち乃くま
を川をちくさ三本うくしく法
しをうしじ五本に乃ゑ本入
うくもくすいの乃ゑくく
うくさをりすけすくを
乃ゑくく乃ゑ入けくうき石ゝ
夜ハ三日冬ハ五日そをし
一づとんしかくろまあ一本とち

次ぎ　ちまさけ一本五合入れ
をくしまめやしうるわるる時服
用する
一ゆべし乃仕やう　ゆべそ乃とく
口とき方　実をとりくみそ三やう
がこせ　ちとうくもちくうやご
まあんにんたるる　入ませく
ちをあをらげもしてほし
あまにつかく亜用
一たう乃いと乃くきをきやう枝
をもきこ乃ちきくほうき
ちをゆい合く面めちちげ

ほしめしてをく
一こほちうるはやくいるくにてう
乃ちくをあくくへいたれんく
こほちくこ　とふと用る
一こぎちびし乃仕やうさけを
をちし実をひちしくと低
見めくちき　合ちふうげちく
をもまくたりとちけをきて
一ちし物ちふちけん文ハ奥一本
ち志ほ文合名いうを志本に志ほ
三合入くはし
一ちちこハ塩とをいを入ちちだち

まくこれまぜてへいたやくと

一ままきちやうゆハ大麦を甘

たくにつき引り小麦三升塩

つきてくり引り大豆を甘その

ままくにんあげ右乃引り

をふるひ板乃上をうるくく玉

にいとこ乃糠をまぜてねさせ

中し稼とく塩八升あ山甘入作り

こみんに甘とうきまつてくる造

用二斗ハ塩四升あを甘ぐり

し四乃三十日して上ケ造

一せんごいとう乃きちやうゆハ大豆

を甘麦を甘あを甘を吹ト塩

四ト乃ハ三ト右いれとうき

塩ひきまちをふるひけれさせ

ん

一たゝき汁乃口伝実を能り

ゑまつ乃糠にんまくゆ三ゑと

入右酒まくゑ笠あけをを甘

あまくあしひあげん板さ

ちほうけ玉だゝたまりまくま

を汁まくもうきたちん乃

こ乃ハうをもゝ甘きうまして造

一やしハまあづきさうけぶ

んごしてもあらをつけ行きて
つちと大きく入やうくをとし
一すは五分斗出るはつひん
ましけすい物上ハをきをはし
一せんだいぼーひいちらまといく
まもとくくうて竈ぬうり
あるくあるひおけを入さいく
ちをへはをるしつけをきて
さうし夜くもしーけぼーと
きくけるもの三度をあるひ粉
ハ乃けを伸斗を月々
一あぶまめ乃粉乃ほだいこんの

乃をぬすこーはるて筋を
ちちをはいるけやぎん
ぐたちーは乃糸をにをひ
ぐちをそをもち乃粉
一ひ乃ごん乃ほうきんロ行
はあ五本に塩を本五合入
ましにへくき物を夜冬ぬき
んあり
一さたうをれちトくはたま
ごをつつーを入れしを入
れをさたう乃ちちをほうも
ふつきくぐれをいけと

祭りまと用ひ

一侯名納豆乃仕やう大豆を十
三乃ちくらくにて上げれう
ぶん乃粉を十をあひけく
合わさせんこと成ることを
こりと煎てくれいくく板中へ
板をとりとさまるとく上
とひへうちをくみわさせん
くれんることをちうきをせる
六本塩三ま入れりこと人乃年
五合入くらくらく煮板ゆくう
き合へ三十日乃うちうきそはし

七月ま塩ち入合九月芋旨此
ちつくひれさせやう戸板へ
入合戸乃さん乃ちさ程上ち
てはしひろく煎いあくく
さくくるつとうあれ中ゆうく
ちやううとまさ三入れ
ロとうくいて風乃ひあやう
まをきくうきこ

右料理ら一奏ハ包丁きり
ら乃式法ゆゑ世只人俗
姿乃物なれハさしてさるま
ものたる事なくゆゑ
ハ乃ゆ伝しるし
はまくゝ物語をとゝもるはち
きうを物ゆゑと名つけ伝
るゝ事ハ名ハくゝ此物を
我手万なん亦ゆるハゆゑ
乃ゆゑとあるん[不]くゝ
いてきたるとはゆゑ
ゆゑ河海乃奥ゆを

ゆゑ一物なる出たる三恵像
夏高ゆゑ
乃ゆはくゝきゆゑ
なれハたきゆゑへゝ
たゝ今ゆゑ
こ乃むゝきゆゑ
ゆゑりきを失念
むだあゝもとき乃
めたび乃ゆゑ
を光にゆゑ
も平ハくゝ
存知乃ゆゑ

寛永十三年二月五日

▲五味多少

一酸おほけれハ脾を傷て肉脇こ

一鹹おほけれハ心を傷て血流こ

一甘おほけれハ腎を傷てをれハ

たこ歯落こ

一苦おほけれハ肺を傷て皮枯

毛落こ

一辛おほけれハ肝をやそうて筋

急爪枯こ

時気を勘へくし味ひ〻情減

ちへ

一三七十二月ハ酸を荷一て甘を

傷し

一夏七十二日ハ苦と有―て辛と
増し

一秋七十二日ハ辛と有―て酸と增し

一冬七十二日ハ鹹と有―て苦と傷し

一四土用各十八日ハ甘と有―て
鹹と傷し

右事乃食法し若病あらハ爰
ゟ慎すへし―

▲飲食ゟ慎

一魚物燔物煎物ゟ多くあま
をハ毒ゟ多く食すべ

甚敷毒ゟ出ハ毒と換―血脉
をやふるし

一肉物ゟ人此汗ゟ多たるをハ
食すへからす疔瘡を生ずる

一自死乃牛乃肉を食すれハ
疔瘡とする

一猪乃脯米の中に毒ゟハ毒
あり

一一切乃肉乃物ゟ銅器と蓋へ
ゟす汗乃滴ゟまハ毒とあ
なり

一銅器乃熱湯飲ゟす悪

と扶する

一麪と煮こる湯飲へゝすれ麪の
毒湯にあゝる

一麪を食して毒にあゝてハ大
うんを食してすきこ

一乱髪食物にゝてを食すれハ
瘢とゝる

一茅屋乃漏ゝ雨ゝ
と食すれハ瘢病とゝる

一簷乃雨菜ゝゝれハ毒あゝ
れすゝれこいあゝらハけ生の
けゝ乾ゝ物を食すれハ瘡

と生ゝゝ

一生果久ゝゝて扶して
食すへゝす

一まつたけ米乃ゝゝてみ
ふと米乃上に出ゝゝと食す
ゝすつゝ人ゝ毒

一茅乃きのこ紋ゝきと毛なゝ
并煮ゝ契せゝゝと赤ゝゝ
は毒

一うゝ乃ゝゝ二あゝとほゝ
あゝとゝに二つもゝ毒あゝ食す
ゝす

一冬瓜煮てはなを食すへ〜
煮ぬい毒あり
一くるとのこと毒あり
一せり赤きすい毒あり
一せり二月初より十月中はまく
食すへからす根をひるあり
一法奥の腦と尾に毒あり行き
生類の分用る
一奥蘞の内筈く髮入ると食す
きい人をうすと
一鰹の頭に毒あり又脊の五の
筋の黒血毒〜

一ふまのひけの赤と目の赤
に毒あり
一ふくたう大毒あり誤て食す死
死すこと法奥あきこあり又たう
食するる大小人ともにうくこ
一馬雞の首の白きに毒あり
一雞雉丙午の日食すへからす
一うつ〜ゝ月ゝ食すへからす
一反氷を食すへからす
▲合食禁ゆ例ノ飲食禁忌書
一うさぎと白雞と同食すへからす
一うさぎと生姜と同食すへからす

一うさぎとうぞと同食すへからす
一うさぎとうしと同食すへからす
一猪肉と生姜同食すへからす
一牛肉と蕎麦と同食すへからす
一牛肉とにらと同食すへからす
一にらと乃たまごとにらと食すへからす
一雉たまごと奥肉同食すへからす
一野きじとゐもつと同食すへからす
一野雉と猪と同食すへからす
一鱉と蒐と同食すへからす
一野雉とふくろと同食すへからす
一雉と菌と同食すへからす
一雉とくらこと同食すへからす
一雉とうぶと同食すへからす
一鴨とくらこと同食すへからす
一鶉と菌同食すへからす
一鯉と紫蘇と同食すへからす
一鯉と小豆と同食すへからす
一鯉と蕎麦と同食すへからす又
麥將醬もこ
一鰤とうしと同菜同食すへからす
一鰤と糖と同食すへからす
一鮒と小豆と同食すへからす
一奥膾と蒭と同食すへからす
一奥膾と大蒜と同食すへからす

一小蜆と糖蜜と同食すへからす
一糖と韭と同食すへからす
一糖と竹笋と同食すへからす
一楊梅と生葱と同食すへからす
一棗と生葱と同食すへからす
一棗と蜜と同食すへからす
一枇杷と炙肉熟麪同食すへからす
一柿と蟹と同食すへからす
一栗と生肉と同食すへからす
一蕪菁と麪と同食すへからす
一栗と杏仁と同食すへからす
一茶とにらと同食すへからす

一麪を食らふ後酒を飲むへからす
乃ち麪宜しからす若し飲むへくハ
先山椒乃粉を酒に入一盞飲めは
毒容ゆるさるし
一白酒を飲くハ諸乃丼物を忌し
一白酒を飲てハ韭を食すへからす
一白酒と生肉と同食すへからす
一酒と紅柿同食すへからす
一酒と鱉と同食すへからす
一酒はなにかし食すへからす
一粥を食して後白湯を乃むへ
からす

## ▲月禁

一正月○虎○狸○生蓼○生葱
梨
一二月○兎○狐○鶏卵○蓼子
○梨○蒜△初九日魚を食す
〳〵す△庚刀乃日奥を食す
〳〵す△冱又ハ三月庚刀日と
一三月○鶏卵○萌○蓼子
鳥獸〳〵五臓百草△一冱又ハ三
月三日獸〳〵五臓并一切果菜
五辛荇ホを食すへ〳〵す
一四月○鶏○雉○鮎○大蒜○虵
○胡葱○五辛△初八日百草を
食すへ〳〵す
一五月○麻○韭○肥濃○煮
餅△端午日一切乃菜并鯉
魚を食すへ〳〵す
一六月○羊○鴈○鴨○澤水
一七月○瓜○生蜜○蓴菜○芋
実
一八月○鶏○雉○生蜜○蟹○
生姜○葫○荇菜○生果
一九月○大○蟹○生姜○甜瓜
一十月○熊○猪○薤○山椒

一十月○龜○鰕○蚌○一切着甲ノ物○陳晡○鶩鴨○生菜○韮

一十二月○牛○猪○龜○蠏○着甲ノ物○鮎○韮○葵菜

▲生熟諸穀類上中下記ス

◐上食ノ分

二度飯○スイタウ飯○栗飯○白粥○ソチカラ○大麦引碎○アハカユ粥○大根ノ増水○葱白増水○若荷増水○金團○アヨヤツ○トチモチ○メグリ○栗團子○青カキモチ○大麦ノチヽキ○フノヤキ○イモヽキ○水線○葛團子○葛焼餅○煉葛○小銭米○黒豆坐禅○青大豆○黒ノ枝豆○ミソヽメノ豆腐○湯葉○六条○十ヽビ○納豆○香ノ法論ミソ○黒塩○香物○ウリ○大根○茄子○芋○牛房○生姜○ウド○スミリウ○ナスヽメ○瓜蔓○タツウメテ

◐中食ノ分

飯○麦飯○赤豆飯○ホヽ飯ノ粉○焼飯○赤豆ノ粥○ソヽノヽ○ナミノウヅ○イモヽ増水○クキミウヅ○

○栗餅○水團○白絲○ツバキ餅○艾團子○キビ團子○千ヒキ○飯千ヒキ○ウドン山桝ノ粉○キリウドン○キリ麺サ○ヤウカンヅ○シエビ米○粉ノ○チリノヤキ米サ○白大豆坐禅○ウルノイリ米○鳥ノロガ○豆腐雉焼○デンガク○ウドン○唐納豆○豆腐観世ヤキミソ○抽ミソ○山椒ミソ○糖ミソ○水ダレミスミソ○焼塩○ヒダモチ

●下食ニ分

強飯○栗飯○蕨飯○ホシイヒ○大麥ノ粉○韭ミソウヅ○千サミソウヅ

○糯餅○赤豆餅○艾餅○焼餅○アンビン○藤ノ花○蕨餅○小麥ノ餅○蕎麥攪○カシノ團子○アメヂヒキ○ヒヤ麺○ムシムギ○入麺○ミヂウ○豆飴○アホザシ○ワサ焼米○イリ米○馬吉白ハ下○モチノイリ米○ヒシホ○スタテ○タレミソ○豆ノ粉○アミモチ○煮ミソ○粉ミソ○ホシミソカス○胡麻塩○柿ツキノ餅

●生熟諸采類上中下記ニ

●上食ニ分

蘿蔔根葉ニ四時用○乾大根煮テ○蔓

菁 秋冬 ○乾菜 ○芋茎 ○ムカゴ

○若荷 若芽春 子ハ夏秋 ○生姜 ○馬歯莧

サ ○荇 三月ヨリ八月ノ末ニ不用

醋 損歯 又根ニヒルアル ○アカザ ○

スイカヅラノ葉 ○山椒 乾漬炒

○ウド乾 カウノモノ ○フキノ葉 ○牛房

煮タキ カウノモノ ○白苣 ○白芥子 子ハ吉 サ

葉不食

○黒胡麻 七度ムシサラシ ○御来 葉ハ

テ用吉

○角豆 白赤ハ吉 黒者 ○藕節

用ル ツフモアヘテモ

生ミノモ

熟シテモ ○ウヨギノ葉 ○山葵 ○地膚ノ

葉 ○菊花 ○梔花 ○干瓢

○芦筍 ○白瓜 煮テモモミノモ ○

○筍乾 ○梅干 ○酒 古酒 新酒 井酒 濁酒 モロミ

○砂糖 赤白少用ル 多ハ悪シ ○麩 ○アブリ昆布

○青ノリ ○海松 ○カタノリ ○ア

ラノリ ○山茸 ○椎茸 生ハ吉 ○平茸 ○

ハツタケ ○桑茸

## ◐中食ノ部

焼大根 煮テモ熟シテモ ○アサ漬大根 ○

蓮 ヨク煮テ ○乾苣 ○唐芋 ○山芋

生ハ吉

熟芋 ○トロ汁 ○ジカミ 母姜 ○白蒐

根モ吉 ○三葉芹 ○アザミ ○アケビノ味エ

○山椒ノ皮 ○山椒ノ葉 ○フキノタウ

○葱 白ミハ生ミノ煮テモ 青ハ煮テ中生ハ下 ○韮 三月用ル 立月凶ル生用

○クキツケ（冷ミテモ）○苣（チサ）湯奠○荻子（カラシ）
サ用ル葉ハ○赤豆（支ノ上秋ノ中ニアリ）○イ（ハスノ若ノ根ノ）
○枸杞葉（虫食葉）○蒲公草（ホンヘミノ竹ノ）○紅藍草
葉○菊葉（汁ニ）○辛夷花○冬瓜（カモウリガキ）
（ツクシ）土筆（竹）紫（竹）舵（竹）淡○来ノ醋（スノ）
奠テ香ノミ
○梅漬○糟ノトメ○地黄奠○蜜（チワウセン）
黒白煉生○奠昆布○ワカメ奠（アフル）○海（ミツ）
雲（クモ）少○アラメヨリ奠ル○ホヤノリ○松露（セウロ）
○松茸（ミツタケ）黒奠ハ吉ク焼（サカイリ）乾○ナメスヽキ○ミメ
チ○ハリタケ

## ○下食ノ分

生大根（スミミ）（ナマ）○大根ノ（ホ）ボリ汁○茎立（クキタチ）

○蔓菜（ウクヒスナ）（末ノ初）○ユグイモ○スイキ○メミ
ヽ汁○蒟蒻（メテ）○人蒐（ヒエ）○蕨（ワラビ）○乾（ホシ）
蕨○リヤウブ○胡椒（セウ）○薺○アサツキ
○蒲（ミミ）（葉根実）○ビル○白胡麻（シロコ）○ク
サギ○昆若（ミミ）○大麻子（ソノ）（イリテモ）（タウアミテモ）○ヲ
ビ○羊歯（ミノ）（子ノハ）葉○虎杖○スギナ○ガ
ナ○タ顔（エウカホ）（サヒミ）汁○茄子（ナスビ）奠テアエミノ
乾ミギヤキ○
胡瓜（キウリ）○若筍（ミカタケノコ）○柚（ユ）葉○カブチ○
菖蒲（ショウブ）醋（ミノベ）○飴（アメ）○心太（ヒロアフ）○生昆布（ナマ）
油炒○ヒジキ○ツノミタ○トツサカ（ムカシノ）○
神馬藻（ジンバサウ）○イクタノワカナ○イクチ○
ベニタケ○クロカハ○子ズタケ

## 生熟諸菓類 上中下記ス

### 上食ス分

蓮実 熟テ吉 未熟生悪 ○蜜柑 甘ハ上 酸ハ下 ○龍眼 ○串柿 ○アヒボシ ○搗栗 ○平栗 ○梨 多ハ悪 ○桃 ○椋子 ○熟柹 ○覆盆子 ○葡萄 ○レイシ ○燕覆 ○茅針 ○桃仁 ○クロクハイ ○熟瓜 唐瓜 梵天サツヽ ○氷餅 ○中茶 淡サ ○ユガミ山掛 ウエギ 陳皮 タイタウ山掛ノ美

### 中食ス分

雞頭実 ○金柑 ○木練 ○木淡

○木淡 ○熟柹 ○生栗 ○焼栗 ○桃 ○ハツリモ ○李子 ○胡桃 ○核子 ○ツルイチゴ ○甘石榴 ○木瓜 ○岩梨 ○茅根 ○李仁 ○白クワイ ○アヨダ ○アラレ ○上茶 ウスク

### 下食ス分

菱角 ○柑子 ○淡柹 ○渋柹 ○柹ヅキ ○ユデグリ ○旧生栗 彩栗 栗 ニ三後ハ不用 ○楊梅 ○李子 ○枇杷 ○生棗 ○椎実 ○酸石榴 ○ウスノミ ○グミ 夏 秋 ○サヽグリ ○イバラユギ ○トコロ ○秋瓜 ○油物 トウガラ ○濃茶 雲脚 古茶

箸ハ○沉○檀○フクラシハ○ハゼ○スワウ
○アホキバ

楊枝ハ○柳○犬山椒○犀角○茄
子蕊○蕪

諸鳥類上中下記ス

上食ス

白鳥○鶴○青鷺○雲雀○雀
冬三月○白鷺カ○鳩○ケリ〳〵○
上
アホヒト、黒焼

中食ス

鳳防○鴨○スミカモ小カモメカヘ○
鴨○鶉○雀卵○ツグミ○五位鷺

○鶏白黄黒斑雌雄卵○啄木嘴

下食ス

コウ○鳥鳩○トビ○千鳥○鴉○雉
雄ハ吉雌ハ中ス○山雉○ヒエトリ○鵯
○鶉○鵐

虫魚類上中下記ス

上食ス

鯉生煮ウケイリヤク○王餘魚○イトヨクリヤク
○十二ゼ煮クニホニウケイリ○ハマグリ
山椒ミソ焼
○蚌カ○カキ○エソ炙生○シバミ○ヨチ
生ホス
煮少○ヨノワタ○セワタ○ハム○ゴンギリ○
鰹○カ天○ニトリ○アミ○イカ梅イリ

○スルメ○メバル○カジカ○鰻○ウナギ矣 鱧

上スシハ○ヒジ○アヂ○クラゲ○ニナガツホ

中

○干鰹○ホヤ○カラスミサ○イレモチ○

イサキ○ヨドロ長シ○カナ神スヽキトモ云

○中食くゝ

鰈 美生矣○雪奥 黄乾○ソモト○

茅螺○バイ○蜂○トリガイ○ナニヱサ

イリヱ○馬刀○ハ千○イリヱ 黄酒淹

○サワラ○ウルカ○ヱノシロ○ルカサ○鰯サ

○ウホノミ○コヱ○海老サ○カドノヱ○サメ

ノタレ○ハエ○モロヱ○ウグイ○イサヽ○ハス

矣ス○田螺○カツホ奥○厥奥 塩引

○カラサケ 黄ミアエ○ノシサ○イハナ○シトヽビ

水アエ

○タナゴ○スヽヨトノ生長

○下食くゝ

鯛 魚塩 塩鯛 干鯛 焼物 酒淹 ウケイリ

カヽホヱハンベン小鯛 ホシ カ鯛ノ子

○鱒 生焼○アメナニス矣○鰤 ナニス者矣酢

○トベタ○鯖 同子ハ中○瓜 班○シイラ○

鰤○クチ○キスゴ 鱚 生矣○フク 生ホ○

鯨

○フカ○シビ○カニサ○ガザメ○鮹 生乾

ソモタヱ サクイリ

○ギヽ○ミヱイ○小エビ○ワメカ○

タナヱ○亀○カナカシラ○エイ 黄サシミ○

蛙 カハヅ ヒラウツ ヒヨリ○白奥サヽ○アンカウ○チニ クロタイ

○クロヤ 黒○サイリスヽノ成長

○イセゴイ ナヨシ ホウキナ アシノメ小ナツハツスバシリイセコイ

## 獸類 上中下記ス

### 上食ス

○羚肉○羊肉○牛肉○獺肉

○鼠肉

### 中食ス

鹿肉冬三月○猿肉○兎肉○狗肉

○狐肉

### 下食ス

猪肉○狸肉○狼肉○猫肉

○能肉

## 水毒

○陰地流泉二八月行途ス間勿

飲之夏發瘧瘴損脚令軟

○銅器蓋食器汗滴食中發悪

瘡内疽

○快湯經宿洗面無顔色洗休成

癬未經宿洗面亦然

○水中亦有赤脉不可斷之

○井水沸不可食ス

## 草毒

○瓜兩蔕害人

○董黄花有毒

○瓜瓠正苦有毒

○荇赤葉害人

○簷溜滴著葉有毒

○生葱雞白犬肉九竅流血
○葫葱青奥腹生蟲
○薤和牛肉成黴瘕
○姙婦食乾姜胎肉消
○生葱和雞子嗽
○蕓多薤食生食令氣奪色陰痿
○九月食霜下瓜血必冬發
○三月不得食陳葅夏熱病發惡瘡
○瓠牛ノ踐苗子即苦

## 木毒

○合口椒有毒
○椒白色有毒
○奪惡蛇從下遇有毒
○生楓木上者笑不止
○採帰色変者有毒
○夜中視光有毒
○欲燭不生蟲有毒

## 獸毒

○獸岐尾殺人
○麻豹紋殺人
○馬蹄夜月五月已後食殺人
○米甕中ノ肉殺人
○漏沾晡殺人

○脯曝不燥火燒不動入腹不銷
○白馬鞍下肉損人五臟
○猪牛肉和食患寸白
○諸肉羹熟不飲水成痕欬
○兎肉食干姜霍亂

## 鳥毒

○鳥自死目不開勿食
○鴨目白殺人
○鳥三足四距殺人
○鳥六指不可食
○鳥死足不伸不可食
○白鳥首不可食
○玄鳥首不可食
○卵有八字不可食
○産婦食雀腦子雀目
○凡鳥飛投人其口中必有物授
毛放之吉

## 果毒

○杏仁雙有毒
桃花食之患淋
○五月食未成核菓發癰瘡
寒熱
○秋夏菓落地惡蟲緣食之患九
漏
○李仁和雞子食患肉結不消

傳閑秘書

汁に塩をやうゆを入るべきに
多又は湯と入るべきは豆のあらひ
ひて煮こだし袋又は行そも
飯をつゝみ汁の中へ入るべくして
うかせは袋の中の飯と塩
ときあるべし汁あらひひきこ

一山せんの形俄に入るはやげんあり
さんせんをやしてそんるに
入ちいさきひやうしんをすれば
形をあるこ

一胡椒形を天月に入ひやうしんの中
いさきえすれいるく形にるこや
げんりやきこひやうたんを取
ぬるこ

一さといもあにし枝サへ入るく煮う
るげてくるさんせんを
うつけてでんるにもしいう
らとまりるくぬ在こ

242
2
1